

理 科 部 門

■ 総 評 ■

今年は、子どもの自然な感性が表われている作品が数多く集まりました。

ただ、今回の傾向として残念だったのは、

- ・実験や観察の対象が一つだけ。
- ・一つのもののからの情報しか得ていない。

このような作品が決して少なくなかったことです。

視野を広げ、不思議に思ったことを全部調べてみようという意気込みを持って取り組みましょう。

さらに創造的で、個性豊かな作品を期待します。

● 最優秀賞受賞作品 ●

わたしとアゲハ

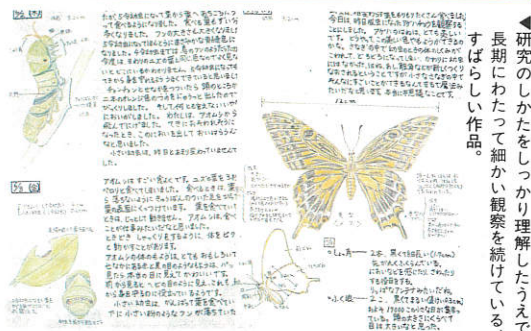
京都府京都市立錦林小学校

4年 野村 愛

○はじめに わたしは、野山のかawaii草花をつむのが大好きですが、その草花を食べに来る虫はあまり好きではありませんでした。特に、毛虫というあのウニウニした動きの虫が苦手よくにげまわっていました。

ところが、四年生になって学校でアゲハチョウの学習をすることになり、どうしてもアゲハチョウの観察をしなければならなくなりました。初めちょっと気が進まなかったのですが、どうやってあの美しいもようのアゲハチョウになるのか知りたいと思ったので、アゲハチョウを育てることにしました。そして、アゲハチョウの幼虫を毎日見ているうちに、あんなに苦手だった毛虫が、だんだんかわいく見えてきたのです。自分でもっとも不思議なことでした。

この「わたしとアゲハ」は、わたしとたまごから成虫になるまでのアゲハチョウに関する日記です。

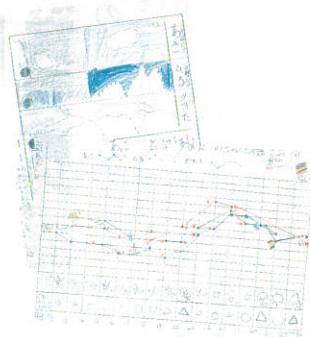


○おわりに この夏、ふ化から羽化まで自分のこの目でアゲハチョウの生きる姿を見て多くのことを教えてもらいました。その中で羽化は、すばらしい感動をあたえてくれました。今まで知らなかったアゲハチョウの世界が見えてきたような気がします。

今度は自然の中で、いろいろなチョウの観察を試みたいと思います。敵の少ない家の中で食草をあたえられて飼育されるチョウとちがって自然の中ではきびしいことがいっぱいあるはずですが、きっとその中で一生けん命にがんばって生きているにちがいありません。そんなチョウにめぐり会いたいです。そして、三年間続けてきた植物採集もずっと続けていこうと思います。

ONE POINTアドバイス

▼夏のくものけんきゅう 伊藤裕子(小2)



この作品は、夏休み中の雲の様子を記録したものです。毎日、朝・昼・夕方方の3回、根気強く観察しています。そして、気温の変化と天気をもとめています。大

変努力している作品です。

ただ残念なのは、雲のスケッチがていねいさに欠けるという点です。きっと急いでスケッチしたのですが、せっかく観察するのであればじつと雲を見て普段気づいていなかった細い部分までスケッチできると、さらによい作品になったでしょう。

また、朝・昼・夕方もたとえば7時・1時・5時と時間を決めて観察すると、より正確な記録ができ、さらにおもしろい研究に発展するでしょう。